



平成 19 年 8 月 23 日

各 位

堺 化 学 工 業 株 式 会 社
堺市堺区戎之町西 1 丁 1 番 23 号
代表取締役社長 安倍 一允
(コード番号 4078 東証・大証第一部)
問合せ先 総務人事部長 石井 英明
(TEL 072-223-4111)

グループ中期経営計画『前進！ Advance to the Next』について

当社グループは、更なる事業の拡大と発展によるステップアップを目指して、この度、今後 3 年間（平成 19 年度から 21 年度）のグループ中期経営計画『前進！ Advance to the Next』を策定しましたので、お知らせいたします。

グループ新中期経営計画『前進！ Advance to the Next』計画の要旨

1. グループ経営理念

『グループの総合力を最大限に高め、社会のニーズにタイムリーに応える事業活動を展開する。以て盤石な経営基盤を構築し社会的貢献を希求する』

2. ミッションとビジョン

ミッション：果敢な挑戦とたゆまぬ革新で持続的な成長をはかり、より存在感の高い会社を目指す

ビジョン：グループの総合力強化で、売上 1,200 億円・経常利益 100 億円を目指す

3. 基本方針

- ① 存在価値の高い会社を目指して、「売上拡大」と「収益向上」の両面作戦を展開
- ② 必要な経営資源を『戦略分野』に効率的・選択的に集中投資
- ③ 投資効率を高めて体質強化を実現し、盤石な経営基盤を構築
- ④ 環境と調和した事業を推進し、社会に貢献する会社を構築
- ⑤ 顧客・株主・社員の期待に応える誇りの持てる会社づくりを推進

4. 数値目標

連結売上高 1,000 億円を目前に控え、『前進！ Advance to the Next』計画では、次の“かく在りたい姿” (the Next) を達成するため、連結売上高 2,000 億円を長期目標とし、その第一ステップとして、今後 3 年以内に、売上高 1,200 億円、経常利益 100 億円、ROE 8% 以上の実現に取り組みます。

表『前進！Advance to the Next』計画(連結経営)の数値目標

(金額：億円)

	18年度実績	21年度目標	対 比
売 上 高	923	1,200	130%
経 常 利 益	86	100	116%
R O E	7.2%	8%	118%

5. 事業戦略の方向性

ビジョン達成のための主要な取り組みは、次の5項目です。

- ① 『戦略分野』へ効率的・選択的な集中投資を継続
- ② グループの総力を結集して事業の強化と発展
- ③ 海外市場での事業強化
- ④ 体質強化の継続で盤石な経営基盤を構築
- ⑤ ステークホルダーの期待に応える基本戦略

① 『戦略分野』

『前進！Advance to the Next』計画では、成長分野のなかで当社グループが強みを発揮できる、「エレクトロニクス」、「プラスチック関連」、「医療・ヘルスケア」、「環境・エネルギー」の4分野を『戦略分野』と位置づけ、経営資源を優先的に投入してまいります。

② グループの総力を結集

『戦略分野』では、グループ各社に跨って取り組んでいる事業が多く、グループ各社の横断的連携の強化と経営効率の向上により、目標達成に向けて事業の強化を推進してまいります。特に、医薬事業、樹脂添加剤事業、有機化成品事業については、従来以上に密度の高い情報交換や協働を展開中で、グループ有機事業の拡大の礎石となる工場用地・設備を、大阪府忠岡町に新たに取得しました。

③ 海外強化

成長のエンジンである電子材料など、国内市場が主力である事業は飽くまでも国内に軸足を置くことは変わりませんが、成長性の高い海外市場戦略では、従来以上に、積極的に事業強化を推進します。海外での成長性が特に見込まれる製品については、現地生産の可能性も含めて、事業の成長・拡大に注力してまいります。

④ 体質強化の継続

成長軌道を確かなものにするためには、グループのコア事業（酸化チタン、バリウム塩類、酸化亜鉛などを主材料とする塗料・顔料・インキ・路材事業）が持続的に成長し、

安定的に収益を産むことが必要です。当社グループでは、生産技術や工程の改良、原材料のグローバル調達によるコストダウンは勿論ですが、生産ラインの一元管理システム化の推進や燃料転換など、トータルコストダウンに継続して取り組み、世界市場で勝ち残ることができる競争力の高い体質づくりに引き続き注力してまいります。

⑤ ステークホルダーの期待に応える

成長を持続的なものにするには、顧客、株主、地域社会、社員等のステークホルダー（利害関係者）のご理解を得ながら、適正水準の資源配分で皆さんのご期待に応えることも重要と考えております。そのためには、誠実で的確な顧客対応は勿論のこと、IRやPRの充実、コーポレートガバナンスの柱である内部統制確立で法令順守の徹底、財務報告に係る内部統制の構築、環境報告書での情報開示と設定目標の実現の推進などにより、環境と調和した健全な事業展開を図り、企業活動の有益性を広くアピールしながら、ステークホルダーの多様な視点を経営に反映しつつ、利益を実現していきたいと考えております。

6. 投資計画や増員計画など

3年間で必要なグループの投資額は200億円、必要な増加要員は200名と見込んでおります。また社員の育成強化のため、社内制度の改善と人的・組織的対応に引き続き注力するとともに、事業環境の変化に即応できる「経営力」の強化と経営効率の向上のため、新基幹業務システムの構築、グループの情報共有環境の整備に着手しております。

7. “かくありたい姿” (the Next)

当社は、『前進 / Advance to the Next』計画の2年目に創業90周年を迎えます。創業以来脈々として培われてきたコア技術（超微粒子・分散・成形技術、有機（硫黄・リン）・医薬品技術）に新たな技術を組み合わせ、当社グループにしかできない機能性の高い素材の開発や製品の成長市場での拡販によって、事業の成長を徹底的に追求してまいります。

このことは、ミッションの『果敢な挑戦とたゆまぬ革新で持続的な成長をはかり、より存在感の高い会社を目指す』を、開発・製造・販売・管理のすべての部門で実践し、長期的には連結売上高2,000億円を目標とし、それに相応しい収益力を実現しながら、世界市場において、より存在感が高く注目されるスペシャリティ集団を目指してまいります。

以上